

経済・金融 フラッシュ

鉱工業生産 10年8月 ～生産は調整局面へ

経済調査部門 主任研究員 斎藤 太郎

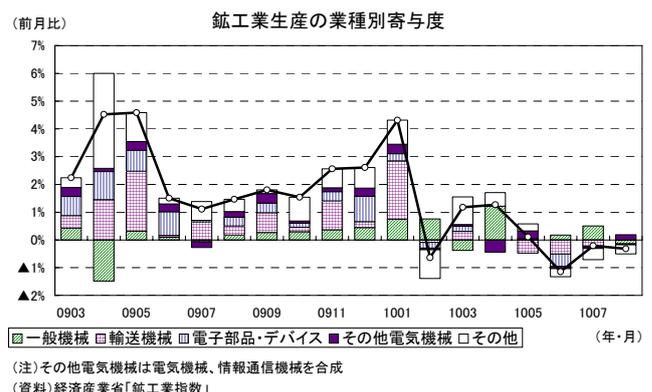
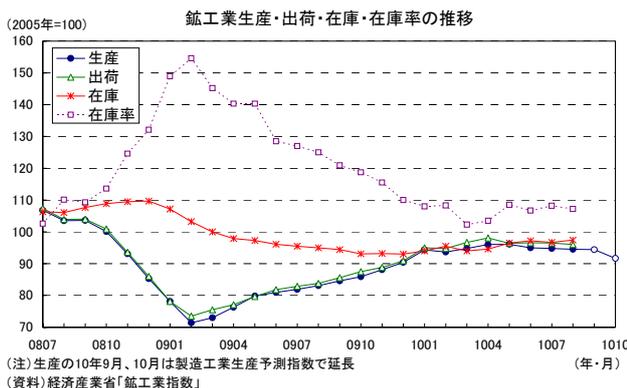
TEL:03-3512-1836 E-mail: tsaito@nli-research.co.jp

1. 生産指数は3ヵ月連続で低下

経済産業省が9月30日に公表した鉱工業指数によると、8月の鉱工業生産指数は前月比▲0.3%と3ヵ月連続で低下し、事前の市場予想（ロイター集計：前月比1.1%、当社予想は同1.0%）を大きく下回った。出荷指数は前月比▲0.5%と2ヵ月連続の低下、在庫指数は前月比0.7%と2ヵ月ぶりの上昇となった。

8月の生産を業種別に見ると、設備投資の持ち直しを受けて好調を続けてきた一般機械が前月比▲1.1%と5ヵ月ぶりに低下したほか、中国向けを中心とした輸出の鈍化傾向を反映し、鉄鋼が前月比▲1.3%と5ヵ月連続で低下した。在庫積み上がりから低下傾向が続いていた情報通信機械は前月比1.1%と3ヵ月ぶりに上昇したが、在庫指数は前月比6.6%（前年比では100.6%）と大幅な積み上がりが続いている。

速報段階で公表される16業種中、10業種が前月比で上昇、5業種が低下（横ばいが1業種）となった。上昇業種数が低下業種数を上回ったが、生産ウェイトの高い一般機械が低下したことが指数全体を押し下げた。



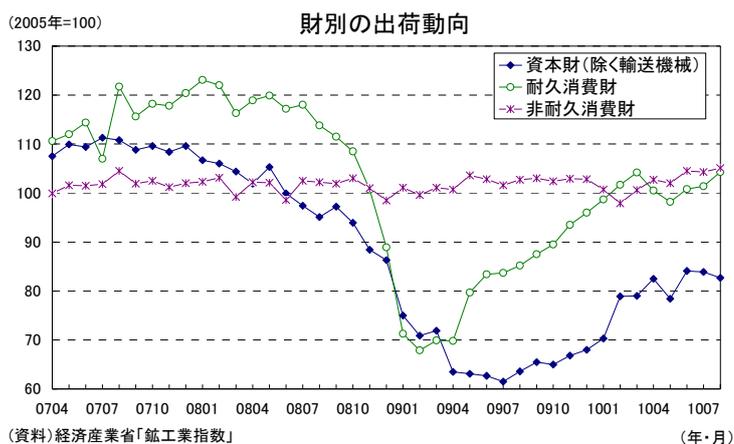
財別の出荷動向を見ると、設備投資のうち機械投資の一致指標である資本財出荷（除く輸送機械）は前月比▲1.4%の低下となったが、7月、8月の平均は4-6月期よりも2.0%高い水準にある。GDP統計の設備投資は09年10-12月期以降、3四半期連続で増加しているが、7-9月期も増勢が維持される可能性が高い。

消費財出荷指数は前月比2.0%と3ヵ月連続で上昇した。猛暑によってエアコンの売れ行きが好

調だったことから、耐久財が前月比2.9%の高い伸びとなった。

耐久消費財は政策効果一巡に伴い4-6月期には前期比▲1.7%と5四半期ぶりに低下したが、エコカー補助金終了前の自動車の駆け込み需要や猛暑によるエアコン販売の好調などから、7-9月期は高めの伸びとなることが見込まれる。

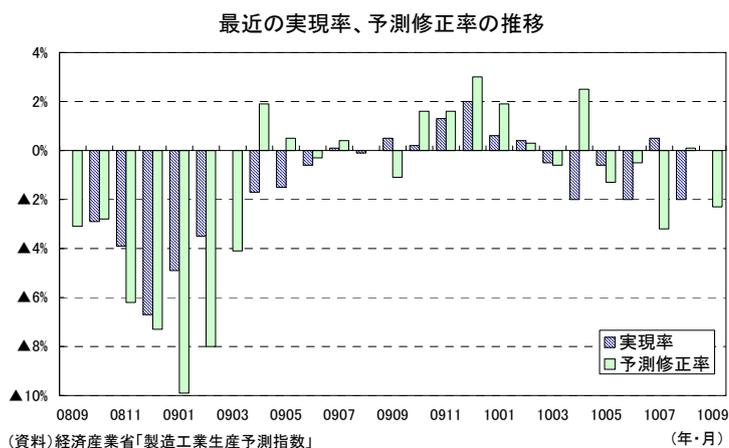
さらに、9月にはたばこ値上げ前の駆け込み需要が加わるため、7-9月期のGDPベースの個人消費は高い伸びとなることが予想される。



2. 7-9月期は6四半期ぶりの減産へ

製造工業生産予測指数は、9月が前月比▲0.1%、10月が同▲2.9%となった。生産計画の修正状況を示す実現率(8月)、予測修正率(9月)はそれぞれ▲2.0%、▲2.3%と大幅なマイナスとなった。夏場以降の円高の進展、輸出の弱含みを受けて企業が生産計画を下方修正する動きが明確となってきた。

予測指数を業種別に見ると、エコカー補助金終了後の販売急減が見込まれる輸送機械は9月が前月比▲4.6%、10月が同▲10.5%と大幅減産計画となっている。ただし、当研究所では10-12月期の国内自動車販売台数は7-9月期に比べ4割近く落ち込むと予想している。現時点の生産計画はさらに下方修正され、11月以降も減産が続く可能性が高いだろう。



8月の生産指数を9月の予測指数で先延ばしすると、7-9月期の生産指数は前期比▲1.2%の低下となり、7-9月期の鉱工業生産指数が6四半期ぶりに前期比でマイナスとなることはほぼ確実となった。さらに、10月の予測指数や輸送機械の減産幅拡大の可能性を考えれば2四半期続けて減産となる可能性が高くなってきた。

(お願い) 本誌記載のデータは各種の情報源から入手・加工したものであり、その正確性と安全性を保証するものではありません。また、本誌は情報提供が目的であり、記載の意見や予測は、いかなる契約の締結や解約を勧誘するものではありません。